



第7回 2007年 国際アビリンピック(静岡大会)をめざす
「さあ、次は世界だ」

旭化成アビリティの3人



写真・文/小山博孝

働く広場 2007.2



篠原加代子さん。2歳のとき交通事故で、左手の親指と人差し指を失う。「両親は甘やかすことなく育ててくれた。そのおかげで、音楽大学でピアノに打ち込むことができた。今なにごととも自分で考え、積極的に進む姿勢につながっている」と話す。前回、山口大会に初めて参加して銀賞を受賞したが、「金が取れなくて悔しかった」と言う。「来年こそ金」と決意し、練習に励んだ。

「お母さん。金賞、めっちゃスゲーよ」（義喜ちゃん、九歳）。「去年は銀だったけど、今度は金メダルだー。おめでとう」（亜美ちゃん、五歳）——と二人の子どもから祝福されたのは、香川で開催された全国アビリンピックのワード・プロセッサ競技で金メダルを獲得した篠原加代子さん（岡山県代表）。篠原さんは、岡山県倉敷市にある『旭化成アビリティ』水島営業所のOA業務グループで活躍している。旭化成アビリティは一九八五年、旭化成が障害者雇用を推進する目的で設立した特例子会社で、延岡、水島、富士、東京に営業所を開設している。

香川の大会には、篠原さんと同じ職場から五名が参加した。篠原さん以外にも、西田達人さん（パソコン組立）

西田達人さんは大学一年のとき、交通事故で右手がマヒした。平成六年に入社してOAグループ立ち上げに参加、OAスタッフの育成にも従事してきた。アビリンピックは、いつも送り出す側として応援してきたが、今回初めてパソコン組立部門にチャレンジした。「パソコン組立は、「一〇年前から趣味でやっていたので少しは自信がありました。金はビックリです」



株式会社旭化成アビリティ
〒710-0847 岡山県倉敷市東富井1063
TEL 086-423-4038 FAX 086-423-4040

と富高孝一さん（コンピュータプログラムミング）が金賞、葛岡志郎さん（データベース）が銀賞を受賞するなど大活躍した。水島営業所では、二〇〇一年のアビリンピックに初めて参加した（表計算部門・銅賞）。それ以降、職場から必ず一人は送り出そうと決め、熊本、宮城、山口、香川の大会に出場し、今回の快挙となった。中田辰男さん（水島営業所営業部長）は「アビリンピックは、まずは出場をめざします。次に全国制覇を目標にすると、それぞれが切磋琢磨するようになります。その結果、技術も一段と向上して、日常の仕事もステップアップして、旭化成グループからも高い評価を得ることができそうです」と話す。



篠原さんや西田さんが働くOA室



篠原さんは静岡での国際アビリンピックに向けて、キーボードを英文入力に変えて仕事を進めている。打ち込む字数も10分間で3000字をめざす



富高孝一さんは、19歳のときの交通事故で車いす生活になった。国立吉備高原職業リハビリテーションセンター（第一種情報処理系）でコンピュータ・プログラムを学び、修了後旭化成アビリティに入社した。平成13年からフリーランスで、業務系のシステム開発の仕事をしている。「アビリンピックでの金賞受賞は、とんでもなくうれしいです。全国の人たちとの交流も楽しかった。次は国際アビリンピック。金を取りたいと欲が出てきました。数学などの基礎を学び直し、知識も豊富にして、時間短縮で課題に取り組みたい」と富高さんは話す。下の写真は、香川大会で競技にのぞむ富高さん



OAグループリーダーでもある西田さんとともに、国際アビリンピックに向けて話し合う篠原さんと富高さん



「国際アビリンピックに向けて、会社としても教育、研修を行いたい。3人の仕事の調整をして対応したい」と話す中田辰男さん（写真左）



「毎日の仕事が忙しいので、なかなか練習時間がとりにくいですが、入賞をめざしてがんばりたい。会社や個人をアピールしたい」と西田さん



山口大会での銀メダル、香川大会の金メダル。「お母さん。次は国際アビリンピックの金メダルだね」と義喜ちゃんと亜実ちゃん。「二人の子どものためにもがんばらないと…」と決意を新たにする篠原さん（倉敷市の自宅で）